



趣味の履歴書

理事 金城 雅之

プラモデルとの出会いは、小学校の5年生頃かと思うが記憶が定かでないで、そう思うようにしている。学校の近くに文房具屋さんがあり、其処にプラモデルが展示されていた旧暦の5月4日(ユッカノヒー)に祖父にプラモデルを買ってもらった時から、私の趣味人生が始まった。

その頃の我が家は、こずかいを貰えるほど裕福ではなかった。学校の帰りにクズ鉄・一升瓶などを拾い集めてそれを売ってこずかいを稼ぎプラモデルを買いに走った。今ではプラモデルの組立の数はへっているが時々模型店に立寄っては物色している、購入して1,2年手つかずの場合もあればその日で製作する場合もありかなりきまぐれである、裕福でなかった頃展示されているUコン飛行機(ワイヤー付)を見て、いつか飛ばしてみたいと思っていたが今ではそれも遠い夢となった。

カーレースとの出会いは、20才の頃行きつけの喫茶店で車の話をしている時だった、読谷村にサーキット場が出来ると聞き、カーレースに興味があったのでジムカーナ(タイムトライアル)に知人らとレーシングチームを結成し申し込んだ。当時自分の車を持ってなかったが、運転の技術に自信があったので兄のカロラを借り参加した。

競技に参加し始めて2カ年がすぎた頃、サーキットが諸問題で閉鎖になってしまったのでやむなく競技をやめる事となった。

ラジコン飛行機との出会いは、休日に時間が出来たので、模型店に出向いた時だった。それからラジコン飛行機に夢中になり15年位夢中になり続けたところが35才も過ぎたある日いつもの様に飛行していると愛機が2重・3重に見えるようになり視力の衰えを感じたので飛行をあきらめざるをえなくなった。飛ばなくなった愛機は年月を経た現在でも大切に保管しあり、私の宝物の一つである。

ヨットレースとの出会いは、ラジコンを諦めたとき、知人がヨットを購入したので乗りにこないかと誘いがあった、船酔いする体質ではあるが、おもしろそうなのでつい乗ったのが、始まりであった、初参加のレースで優勝をしてしまったことで、ヨットレースのおもしろさ・奥深さを知り病みつきとなってしまった。県内のレースのみならず、海外レース(おもに韓国・台湾)にも時間ができれば参加するようになった。

自称ビール党の始まりもヨットの上であった、アルコールはほとんど飲む気もしなかったが、夏の海の上で飲んだビールの味が忘れられず、今では海・陸の場所をとわず、飲む時はビールとなってしまっている。

いろいろな趣味をやっていて人種・職業・年齢を問わず、多くの人との出会いがあり、ストレスの解消に最適である、ところが家庭サービスはおろそかになりがちであり、休日は、ほぼ母子家庭状態である。これからは家族皆で出来る趣味も始めたいと思っている。

◎挑戦したがあきらもの

パトミントン競技(体力がついていかず)

ハンググライダー(高所恐怖症に気づいた)

囲碁・将棋(性格的に合わない)

◎趣味の域に達してないもの

ダイビング・釣り・ゴルフ

◎挑戦したいと思っている物

三味線・油絵・調理・ガーデニング



一般社団法人 沖縄県設備設計事務所協会